



## CHAPTER 8

# Telnet の設定

---

この章では、Telnet を設定する手順を説明します。内容は次のとおりです。

- 「Telnet サーバの概要」 (P.8-1)
- 「Telnet の前提条件」 (P.8-1)
- 「注意事項および制約事項」 (P.8-2)
- 「デフォルト設定」 (P.8-2)
- 「Telnet の設定」 (P.8-2)
- 「Telnet の設定の確認」 (P.8-5)
- 「その他の関連資料」 (P.8-5)
- 「Telnet 機能の履歴」 (P.8-6)

## Telnet サーバの概要

Telnet プロトコルを使用すると、ホストとの間で TCP/IP 接続を確立できます。Telnet を使用すると、あるサイトのユーザが別のサイトのログインサーバと TCP 接続を確立し、デバイス間でキーストロークをやり取りできます。Telnet は、リモート装置アドレスとして IP アドレスまたはドメイン名のいずれかを使用できます。

## Telnet の前提条件

Telnet には次の前提条件があります。

- レイヤ 3 インターフェイス上に IP、mgmt 0 インターフェイス上にアウトバンド、またはイーサネット インターフェイス上にインバンドを設定していること

## 注意事項および制約事項

- Telnet サーバはデフォルトでイネーブルになっています。
- Cisco NX-OS のコマンドは Cisco IOS のコマンドと異なる場合があります。

## デフォルト設定

次の表に、Telnet のデフォルト設定を示します。

パラメータ	デフォルト
Telnet サーバ	イネーブル

## Telnet の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[Telnet サーバのイネーブル化](#)」 (P.8-2)
- 「[リモート装置との IP Telnet セッションの開始](#)」 (P.8-3)
- 「[Telnet セッションのクリア](#)」 (P.8-4)

## Telnet サーバのイネーブル化

Telnet サーバをイネーブルにするには、次の手順を実行します。Telnet サーバはデフォルトでイネーブルになっていますが、必要な場合は、次の手順を実行して再度イネーブルにすることができます。

### 始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしています。
- デフォルトでは、Telnet サーバはイネーブルになっています。

### 手順の概要

1. `config t`
2. `telnet server enable`
3. `exit`
4. `show telnet server`
5. `copy running-config startup-config`

## 手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>config t</code>  例： n1000v# config t n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>telnet server enable</code>  例： n1000v(config)# telnet server enable n1000v(config)#	Telnet サーバをイネーブルにします。
ステップ 3	<code>show telnet server</code>  例： n1000v(config)# show telnet server telnet service enabled n1000v(config)#	(任意) Telnet サーバの設定を表示します。
ステップ 4	<code>copy running-config startup-config</code>  例： n1000v(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションで行ったこれらの変更内容を、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

## リモート装置との IP Telnet セッションの開始

リモート装置との Telnet セッションを開始するには、次の手順を実行します。

## 始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行しておく必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしています。
- リモート装置の Telnet サーバがイネーブルであることを確認しています。
- リモート装置のホスト名と、必要な場合はリモート装置のユーザ名が取得済みです。
- Telnet サーバがイネーブルであることが確認済みです。そうでない場合は、「[Telnet サーバのイネーブル化](#)」の手順 (P.8-2) に従ってイネーブルにしています。デフォルトでは、Telnet サーバはイネーブルになっています。

## 手順の概要

1. `telnet {ip address | hostname} [port-number] [vrf vrf-name]`

## 手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>telnet {ip address   host-name} [port-number] [vrf vrf-name]</pre> <p>例: n1000v# telnet 10.10.1.1</p>	<p>指定した宛先との IP Telnet セッションを作成します。</p> <p><b>port-number</b> : このセッションで使用するポート番号 (1 ~ 65535) です。デフォルトのポート番号は 23 です。</p> <p><b>vrf-name</b> : デフォルトの VRF はデフォルト VRF です。</p>

## Telnet セッションのクリア

Telnet セッションをクリアするには、次の手順を実行します。

## 始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行しておく必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしています。

## 手順の概要

1. `show users`
2. `clear line vty-line`

## 手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>show users</pre> <p>例: n1000v# show users</p>	ユーザ セッション情報を表示します。
ステップ 2	<pre>clear line vty-line</pre> <p>例: n1000v# clear line 1</p>	ユーザの Telnet セッションをクリアします。
ステップ 3	<pre>show users</pre> <p>例: n1000v# show users</p>	ユーザ セッション情報を表示します。

```
例:
n1000v# show users
NAME      LINE      TIME          IDLE          PID COMMENT
admin     tty1      Jul 25 19:13  old          2867
admin     pts/1     Jul 28 14:04  .            31453 (::ffff:171.70.209.8)
admin     pts/2     Jul 28 14:04  .            31475 (171.70.209.8)*
n1000v# clear line 1
n1000v# show users
NAME      LINE      TIME          IDLE          PID COMMENT
admin     tty1      Jul 25 19:13  old          2867
admin     pts/2     Jul 28 14:04  .            31475 (171.70.209.8)*
n1000v#
```

## Telnet の設定の確認

Telnet の設定情報を表示するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show running-config security [all]</code>	実行コンフィギュレーション内のユーザ アカウントの設定を表示します。 <b>all</b> キーワードを使用すると、ユーザ アカウントに対するデフォルト値が表示されます。
<code>show telnet server</code>	Telnet サーバの設定を表示します。
<code>show hosts</code>	現在のホストの設定詳細を表示します。
<code>show tcp connection</code>	接続情報を表示します。

例:

```

n1000v# show running-config security all
version 4.0(1)
username admin password 5 $1$xMw2Q/1S$ZEWrvyAxAJAFV0weuSPvg1 role network-admin
username user2 password 5 $1$byNNnnSP$xfXVKjE5UEScvriwX3Kyj0 role network-operator
username user2 sshkey ssh-rsa
AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAQEAYKcb7Nv9Ki100Id9/tdHHA/ngQujlvK5mXyL/n+DeOXKfVhHbX2a+V0cm7CCLU
kBh+BvZRmpmOVTmU/5awfVhVxMKXMiPOPbc+A6/n3FVroyRwupMki6mW
oM6UwaGID5gsVPqFjFNSgMwtbhjo97XVKhgjFW+wOVt8QoAcrEtnwEfsnQk1EIr/0XIP1mqTsrqTsmjZ2vLk+ffZtG
YAxMvYZI+BrN47aoH2ywS7CpnODjCDXJuDYSPbc3PA8t0ghU/60m9R+s6AZPuljVQbGfxPrahEu4GVc6sMJNU1
JxmQDJkdhMArObB4Umzj7E3Rdby/ZWx/clTYiXQR1X1VfhQ==
telnet server enable

banner motd # User Access Verification #

ssh key rsa 1024 force
no ssh key dsa force
ssh server enable

```

## その他の関連資料

Telnet の実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「関連資料」 (P.8-5)
- 「標準規格」 (P.8-6)

## 関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
SSH	第 7 章 「SSH の設定」
CLI	『Cisco Nexus 1000V Getting Started Guide, Release 4.0(4)SV1(3)』

## 標準規格

標準規格	タイトル
この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。	—

## Telnet 機能の履歴

ここでは、Telnet のリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
Telnet	4.0	この機能が追加されました。